（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス　ぱぐ		
○保護者評価実施期間	R７年3月１日	～	R7年４月30日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）15名	（回答者数）	集計中
○従業者評価実施期間	R７年３月１日	～	R7年４月30日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）7名	（回答者数）	7名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年４月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	心理スタッフを配置し、週ごとに「心のテーマ」を子ども達に共有する時間を1日の支援時間内(はじめの会や帰りの会)などに設ける。	演劇の要素やダイナミックマインドトークを取り入れたスタッフから子ども達への関わり「心のテーマ」の説明(寸劇や話し方)でより子ども達に伝わるような工夫。	ご家庭でも実践出来るように情報発信や、 ご家族に実際にレクチャー出来る機会を設ける。
2	1日の活動を動画にまとめた「Pug’s　Film」の作成と共有。	活動の様子や子ども達の様子がよりイメージできるよう、 毎日連絡帳と共に動画を共有。	活動以外にもご家庭でも実践できる声掛けや情報共有を 行えるよう編集により磨きをかける。
3	AIセラピストを用いて子ども達1人1人の課題に沿った支援プログラムの共有、実施。	集団活動が苦手な児童に対してや、 個別のサポートが必要な場合など、臨機応変に遊びの中に 支援が実施できるような工夫。	スタッフ全体で内容を共有、フィードバックし、 より支援が充実するように改良を重ねる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族間のコミュニケーション機会の不足。	イベントなどの実施が出来ておらず、 保護者同士のコミュニケーションが わずかになってしまっている。	イベントや情報共有の機会を作り、 保護者同士のかかわりを増やしていく。
2			
3			